

右京の福祉活動を発信！

ウェル BOX 右京 2025

地域福祉の
玉手箱

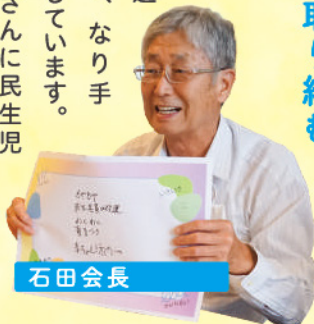


ウェルBOX右京は、右京区の「優しい活動」を多くの方に知っていただき、
ともに活動に参加して欲しいという思いで発行しています。
誰もが帰ってきたいと思えるまち、何気ない優しさが広がるまち、安心して
暮らせるまちの情報をお伝えします。

「わくわく」に 真面目に取り組む

3年に1度の民生児童委員改選の年ですが、なり手不足に直面しています。

地域の皆さんに民生児童委員の活動内容を理解していただき、一緒に活動することを通じて地域に笑顔を増やしたいと思っています。



石田会長

赤ちゃんからお年寄りまで、お悩み、お困りごとのある方、個別支援等相談に応じています。(守秘義務あります)



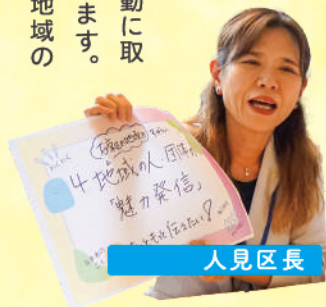
日々暮る地域愛。 魅力を発信したい

また、子どもはぐくみ室と協力しての赤ちゃん訪問から、お年寄りの見守り訪問、災害時の名簿作り等、行政と地域と個人をつなぐ役割を持っています。

このような活動を通じて「わくわく、楽しく、参加できる地域づくり」に取り組んでいきたいと思っています。

右京区は「京都市の縮図」といわれますね。山間地域もあれば、まちなかもあり、いろいろな姿が見られる右京区。地域に一步踏み込んでみると、多様な活動があり、まさに「地域力」を感じられる行政区です。区長として、様々な人や団体の皆さんと出会い、対話する機会がありますが、「地域愛」を感じるばかりです。

皆さん真剣に地域のことや住む方のことを考えて日々活動に取り組んでおられます。行政はこうした地域の



人見区長

取り組みをどうしたら区民のみなさんに届けることができるのが大事で、日々「発信」に力を入れていると思っています。

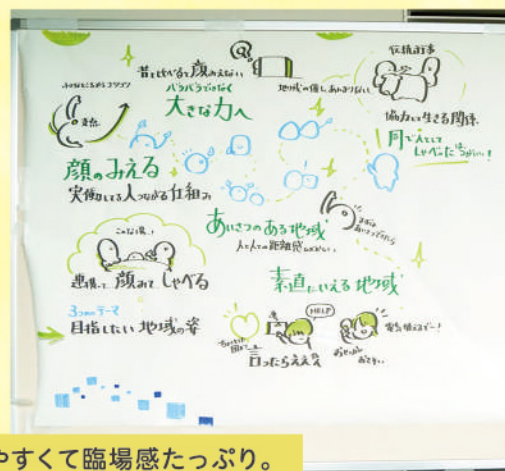
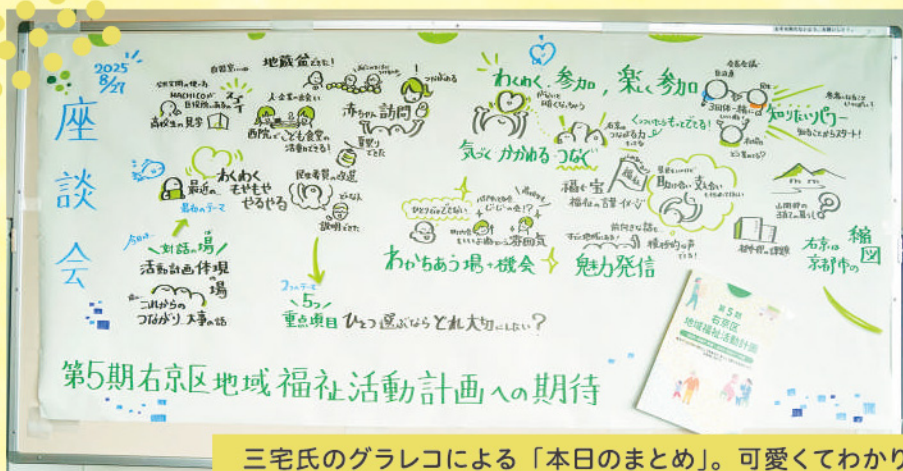
誰かのために、自分のために

今回はまちづくり最前線の4名の方に語り合っていました。地域福祉は、誰にとっても「無関係」ではありません。地域の人々や団体が情報を共有し、思いを出し合うことで、相互理解を深め、信頼関係を築くことができます。コミュニケーションが深まると問題解決に向けた協力や努力がより容易になります。地域に暮らす人々のこと、福祉のこと、少しでも向き合う時間を持てるといいですね。



NPO 法人 山科醍醐こどものひろば・ ファシリテーション グラフィッカー 三宅正太氏による『グラレコ』

グラレコとは…
話し合いを可視化する技術「グラフィック・レコーディング」の略。ビジュアルを用いることで、議論の内容や要点を直感的に理解し、また印象的に伝えることができる。



三宅氏のグラレコによる「本日のまとめ」。可愛くてわかりやすく臨場感たっぷり。

第5期 右京区地域福祉活動計画

ウエルBOX

座談会



右から
右京区社会福祉協議会 会長 高屋宏章さん
右京区長 人見早知子さん
右京区自治会連合会 会長 鈴木義康さん
右京区民生児童委員会 会長 石田光さん

「福祉を実現する場は地域社会にある」そのような思いを先人から受け継ぎ、私たちは自分たちが住む地域の福祉の向上を図ってきました。第5期目の地域福祉活動計画のスタートに際して、令和7年8月にその中核となる団体・組織の代表者が集まり、座談会を開きました。

第5期右京区地域福祉活動計画のキーワードは5つ。①当事者のこえが伝わる機会、多様な主体が力を②分かちあう場、③わくわく参加する土壌、地域の人・団体の④魅力発信、地域の福祉に関わる団体が⑤いきいきと活動する基盤です。このキーワードをもとに、「私の一番の重点目標」をフリップボードに書いて、右京区の福祉のまちづくりを語っていただきました。

楽しくないと続かない



高屋会長

福祉の「福」は幸福の福。人に幸せを分け合うことや分かち合うことだと思えます。地域では、担い手の高齢化やつながりの希薄化等、課題は山積かもしれません。地域には楽しく、わくわくする活動がたくさんあります。例えば、太秦学区では「太秦ふれあいまつり」を開催していますが、地域の方が集い、楽しいことから参加ができる活動です。場に集うことで会話が生まれ、つながりのきっかけとなることを期待しています。こうした場を作っているのは地域の団体ですが、1つの団体だけでは到底難しく、

自治連、民生、体振、少年補導委員会など各種団体の力を合わせています。だからこそ、「楽しくないと続かない」。それが活動の原動力だと思います。

地域を身近に。つながって、分かち合う

「コロナ禍で休止し、再開をしたくてもなかなかできなかった「西院ふれあい食堂」が、11月に復活するんです」。地域の飲食店等、数年前にはつながりがなかった新たな協力者があり、とてもありがたいです。こうしたつながりも対話から生まれるのだなあと感じます。顔の見える、実働している人のつながる仕組みを大切にしたい、そして「知らない」から「知っている」に変わるきっかけをつくりたい。例えば、地域の子育てサロンの場に私も参加して、地域の情報を提供することで「サロンで出会った私」を身近に感じてもらい、地域もまた身近に感じてもらえないかな、と思ったりしています。



鈴木会長

SEVEN SAMURAI

KAMIYUGE



支えあいボランティアチーム上弓削のみなさん

(写真後列左から)

石浦さん、大前さん、佐伯さん、寸田(すんでん)さん

(写真前列左から)

市野さん、古家(こや)さん、米津さん

ピックアップ福祉ビト

山間地域で高齢者の移動を支える！

買い物、通院、友達との交流：普段当たり前に行っていたことができなくなった時、あなたならどうしますか？
高齢者の運転免許返納が進む一方、公共交通を担う運転手の減少と、財源不足は大きな課題だ。少子高齢化が進む中、この問題は他人事ではない。

立ち上がった 「七人の侍」！



右京区京北地域：総面積の9割以上を森林が占めるこの地域で、移動に車は必要不可欠だ。「マイカー移動が難しくなった方に、何かできないか」と思っていた「そう語るの、自家用車で移動支援を行う「支えあいボランティアチーム上弓削」の古家(こや)代表。発足のきっかけとなったのは、令和6年2月。自家用車を使って移動を支える制度について、近畿運輸局の講演を聞く機会があった。「説明を聞いて、自家用車での移動支援ならできそうだと感じた」「お互いの顔が見える上弓削から何かできないかと思った」。初めてのことで課題は色々あるけど、まずは



和気あいあいと、活発に意見を交わすチーム上弓削のみなさん



重い荷物もおまかせ！

のことで課題は色々あるけど、まずは

「他人事」から 「自分事」を次世代につなぐ



取組が始まり、令和7年7月で1年が経過した。毎月の定例会では、活動実績をはじめ、成果や課題を報告し合う。「利用される方のご家族から、喜ぶ声を聞くことも多い」活動が定着するにつれ、利用者数は徐々に増加傾向だ。「自分たちもいずれ運転が難しくなる時が来る。この取組を知ってもらい、次世代にバトンを繋いでいきたい。高齢者になっても、安心して免許返納できるようになればと思う」と、米津副代表。自分事として支え合い、住民主体で取組む、七人の「声」から学ぶことは多い。

やってみようと、地域に住む七人が声を掛け合った。

実施に向けては、社協職員や行政、保険会社等の助けを借りながら、メンバーで半年間、話し合いを重ねた。こうして同年7月、「チーム上弓削」の取組が始動した。

右京区内で広がる「移動・買物を支える取組」

京北黒田



社協が実施する外出支援の運転ボランティア有志を中心に、移動支援の実施に向けた検討会を開催。自治会と連携して住民アンケート調査を実施し、結果を踏まえ協議を進めている。



自治会連合会、学区社協が主体となり、嵯峨野ケアセンターそよ風(嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1)協力のもと、ダイエー移動販売を実施。

みんなの 「暮らし」のために

右京区内で「移動・買物を支える取組」が広がっています。

いきいき活動

高雄社会福祉協議会

「こんにちは!! 高雄社協です」お昼時、高雄学区の役員や、地域福祉委員がお弁当をもってインターホンを鳴らす。自宅から出てきた高齢者は笑顔で受け取り談笑する。そんな様子が見られるのは、高雄社協で実施されている独居高齢者への配食サービスだ。



顔がパツと明るくなる!

月に1回開催される地域福祉委員定例会は、見守り活動に携わる町内の委員が集まる大切な場。「私が担当している方は人と話すのが大好きで、お伺いすると顔がパツと明るくなるんです」「いつもと違う笑顔がみられます」と、委員の皆さんは口々に語る。「最近こ

こが痛くてしんどい」と言われると異変に気づきやすくなるし。「暑いのにこ苦労さまやね。ありがとう」と歓迎してくれると、私でも助け合いができていかなと思います」。

楽しく活動♪



高雄の見守り活動に携わるメンバー

「こちらから『何かをしてあげる』ではなく、みんなで『一緒に楽しむ』雰囲気大事」と語るのは高雄社協の中川さん。「交流の機会になり、仲良くなるきっかけになってもらえれば」と安部会長も言葉を添える。高雄社協の一体感が、心のかような配食や居場所づくりにつながっている。



写真左から
安部会長、中川さん

西院第一社会福祉協議会

平成9年から始まった「ふれあい喫茶」の活動は、学区社協が行う70歳以上の高齢者を対象にした会食活動。地元西院小学校5・6年生がボランティアとなり、社協と学校関係者のチームワークで運営されている。

積極的な子どもたち

「こんにちはー」「あちらに座ってお待ちください!」。料理を運んでいる子どもたちの姿に自然と笑顔がこぼれる。ふれあい喫茶でのボランティア活動が「10回皆勤賞!」と胸を張る子も。参加の醍醐味を聞くと「ありがとうの声が何よりうれしい」と満面の笑み。そんな子どもたちの姿を学区社協の役員がやさしく見守る。普段は一人で過ごす時間が多く方にとって、子どもとのやり取りは何よりの楽しみになっている。

子ども×社協×学校 みんなでワイワイ♪

「楽しくないと続かないんです」そう語るのは西院第一社協の細野さん。「イイイヤやっていたら気持ち疲れちゃう。



楽しさがつなぐ先

西院小学校の坂本校長は「担い手の皆さんには圧倒的なボランティア精神の温かさがある」と話す。この活動をきっかけに学校に登校を再び始めた子どももいる。「すべての子どもに輝けるチャンス。休日にやるけど(やるからこそ)、平日以上の価値がある」。「ふれあい喫茶」は笑顔と温かさを広げる場所と、みんなをつなぐ居場所となっている。



西院第一社協 細野さん



西院小学校 坂本校長

「分かち合い」活動紹介

悔るなかれ「すごろく」体験で福祉への没入感！

「U-Kids」学習会

国連が1989年に「子どもの権利条約」採択し、日本は1994年に批准。それから30年。2023年に日本で「子ども基本法」が施行され、子どもの権利を保障する社会に向かっていきます。

「子どもにとって『やさしいまちづくり』を進めたい」「子どもの権利を子どもの居場所に活かしていきたい」。そんな思いと参加者の「わくわく」を大切に、学習会を開催しました。

臨場感たっぷり！子どもの気持ちを追体験

大阪の子どもたちの経験を募った実際の「なんでやねんカード」をめくりながら、子どもの権利を学ぶ「子どものけんり」なんでも！すごろく（子どもの権利条約関西ネットワーク制作）を体験。「他の子と比べられる」「大人だけ夜にお菓子を食べている」「入りたい部活があるのに親が許してくれない」など、日々の暮らしで子どもの権利が身近であることに気づくことができました。



「絵本から、とてもわかりやすく子どもの権利を知ることができた」「涙が出そうになった」「子どもの心の声が聞こえた」との感想が寄せられた絵本の読み聞かせ。このは

絵本の読み聞かせ「ようこそ こどものけんりのほん」



「声を聞いてくれる大人がいるというだけで子どもは安心する。すごろくの作成にあたって子どもの声を大切にしたい」



子どもの権利条約
関西ネットワーク
山口さん



「子どもの話を聴いて、大人が実現できるかどうかではなく、一緒に話し合っただけで行動につなげていくことが大切です」

な文庫の鈴木さんの透き通るような声に会場が温かく包まれました。

子どもの権利を学ぶとは、子どもの目線に立つこと。「意見を聞いてもらえる」「叩かれたり怒鳴られたりしない」「安心して暮らせる」など、普段はあまり意識にあげられない「あたりまえ」が、実は権利として守られていると、あらためて実感した時間でした。

やってみた！福祉すごろく いろいろ体験会



誰もが一度は遊んだことがある「すごろく」。実は、古代インドを経て中国から日本へ伝わったとされています。今、「右京区地域福祉推進委員会（通称アクティブネット）」では、この楽しさとワクワク感のある「すごろく」を地域福祉への関心呼び起こすツールにできないかと検討し、「まずはやってみよう！」とこれまでに開発されたすごろくを実際に21名のメンバーで体験しました。

「ようこそ こどものけんりのほん」
白泉社
絵：えがしらみちこ
文：子どもの権利・きもちプロジェクト



人生すごろく～難病編～



「当事者の方がそこにいる、解説をまじえてくれることで、より理解が深まりました。知らなかった制度にもふれることができました」

子どものけんりなんでやねん！すごろく



「自分の子どものころを振り返りながら、『なんでやねん！』と思った、その時の感情を思い出し、経験を分かち合いながら遊ぶことができました」

介護予防すごろく



「初めて会った方とも言葉を交わし、笑い合い、関係が近く感じました。楽しみながら福祉を学ぶ・理解する工夫が随所にありました」



わがまちの福祉ヒーロー

経験を活かし、右京に笑顔を広げる

日常生活自立支援事業
生活支援員の活動から

支援員・中川さんの場合



もやもや…

「気になる」から

「学び」へ

東京の金融機関で働いていた中川さんは、窓口に来られる「暮らしの中で何かお手伝いが必要とする人の存在」との関わりの中で、「もやもや」を感じていた。6年前、京都に引っ越ししてきた中川さんは、大学で半年間福祉全般を学んだ。そのきっかけになったのも、この「もやもや」だ。当時を振り返り「何かお手伝いがあれば不自由なく暮らすことができる人がいる。私の関心の原点だったのかもしれない」と話す。



やるやる！
1枚のパンフレット

コロナ禍がようやく落ち着いていた2022年。「福祉を学んで、これから何をしようかな」と考えていた時に、友人から1枚のパンフレット「生



【福祉ビトから読者にひとこと】
「支援員活動を通じて、京都の皆さんと馴染むことができましたように思います。私みたいに、新しく京都にきた方こそ、おすすめな活動ですよ」。中川さん



わくわく♪
喜ぶお顔がうれしくて

住み慣れた場所で暮らし続けるために、生活の中で必要なお金のことや郵便物の整理をお手伝い。「わからなければ専門員（社協職員）に聞けばいいと、気楽にとらえています」と、笑顔で話す中川さん。「人と話す機会も外出の機会も減った利用者さんが、支援の時に一緒に歩きながらお話ができることをとても喜んでくれる。喜んでおられるお顔を見ると私もうれしくなります」。

支援員・影山さんの場合



キャリアが活きる

「事業名だけ見ると、車いす介助の仕事かと思った。（笑）」と話す影山さん。「常々、何かできることはないか。」と考えていたそう。法務事務所の副所長を務めていた経験の中で、財産管理を担う成年後見人等と連携していたこともある。本事業では『成年後見人等が選任されるまで』や『成年後見人等の選任には至らない方々』が対象と知り、すぐに生活支援員へ登録した。



変化が生まれる

アルコールとの付き合い方に課題があった利用者さんが、訪問看護や医療機関をはじめとする支援機関との関わりの中で、ゆるやかに変わっていく姿が印象に残っている。利用者さんとの会話で「ちよつとしんどそうやな」と感じたことを専門員に報告したことがきっかけで、入院につなげることができたこともある。「今はお酒じゃなくて、お菓子、



福祉はつながり

机に置いてあるよね」と話す影山さんは、優しく笑う。

「楽しいよ。楽しいって言ったら語弊があるかもしれないけど、利用者さんの人生に関わることができ、長い支援の中で人となりを知ることができるとは面白い」と話す。影山さんにとっての『福祉』とは、「人とのかわり、人とのつながりだと思っているね、うん。福祉は社会とのつながりであり、社協はその窓口だと思っているよ」。



【福祉ビトから読者にひとこと】

「この事業は、いろんなことが分かって楽しいですよ。利用者さんの金銭管理と一緒に考えるうちに、自分自身の生活感も身についたと思います。もし何かやりたいけど、やりたいことが決まっていなくてあれば、まずは研修を受けてみたらいいんじゃないかな」。影山さん



日常生活自立支援事業
生活支援員募集

高齢者や障害のある方が、地域で安心して生活するために、金銭管理等を担っていた方を募集しています。

社会福祉協議会では、「生活支援員養成研修」を行い、活動にあたっては専門員（社協職員）がサポートしながら、活動をしていただきます。

令和7年度

右京区社協・賛助会員

ご加入のお願い

誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりのため、
地域の福祉活動をすすめる財源にご協力をお願いします。

28.5%
区域の
地域福祉
活動のために

賛助会費の
使途
11,820,085円

41.5%
学区社協
助成金

令和6年度
賛助会費の使途内訳

30%
学区社協への
還付金

教えて
教えてー

社会福祉協議会とは？

社会福祉協議会（以下、社協）は、地域住民や社会福祉関係者の参加により、地域福祉の推進の役割を担い、さまざまな活動をおこなう非営利の民間組織です。京都市では市・区・学区の三層の社協活動を推進し、学区社協が最前線となり居場所づくりや見守り活動、相談事業等を展開し、市・区の社協が学区社協活動の後方支援を行っています。

賛助会員 制度とは？

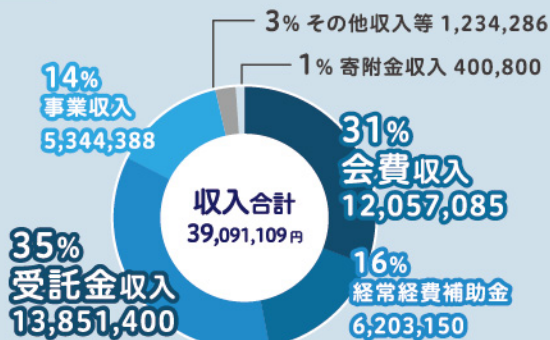
右京区社協では、区民の皆様のご理解と参加・応援のもと、区社協と学区社協が取り組む地域福祉活動を充実させるため、賛助会員を募集しています。賛助会員とは、区社協と学区社協の活動の趣旨・目的に賛同し、区内の地域福祉活動を財政的にご支援いただく「地域福祉の応援団」です。

令和6年度 賛助会員募集実績一覧

学区名	賛助会費（円）
太秦	2,030,000
南太秦	440,500
常磐野	698,800
安井	518,600
嵯峨野	683,350
山ノ内	534,600
西院第一	419,110
西院第二	691,500
梅津	310,300
北梅津	300,100
嵯峨	970,600
広沢	412,500
嵐山	162,700
宕陰	20,000
水尾	17,000
花園	529,000
御室	501,600
宇多野	426,500
高雄	360,000
西京極	496,625
葛野	340,000
京北	956,700
合計	11,820,085

区社協本部拠点区分

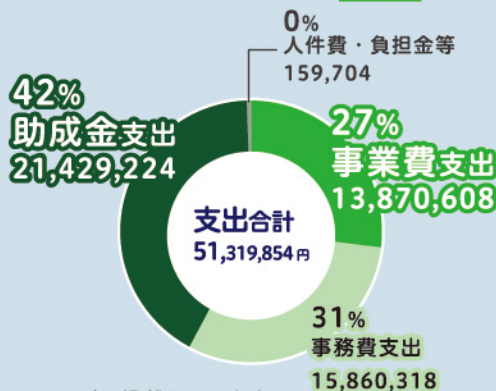
収入内訳



令和6年度 決算報告

区社協本部拠点区分

支出内訳



令和6年度事業報告書、収支決算書は本会ホームページに掲載しています。

地域福祉活動へのご寄付をいただきありがとうございました。（令和6年8月～令和7年7月）

■大島 智子 様 ■高橋 秀樹 様 ■中村 茂喜 様 ■株式会社 信天堂 様 ■京都ダイハツ販売株式会社 五条カドノ店 様
■京都西ロータリークラブ 様 ■太秦農事研究会 様 ■その他匿名者 様

《個人情報の保護について》

本会は、社会福祉法人京都市右京区社会福祉協議会「個人情報保護規程」により、個人情報の適正な取得と管理に努めます。（賛助会員募集にあたってお受けした個人情報は、募集事務のみに利用し、それ以外に使用することはありません。また、その管理につきましても適正に行います）

《賛助会員募集期間》 令和7年12月～令和8年2月

《賛助会費》

個人一口 500円/年（1口以上）

団体・企業一口 10,000円/年（1口以上）

※納入方法は、お住まいの学区によって異なります。詳しくは、学区役員などお世話いただく方等にお尋ねください。

※個人・団体・企業等で、領収書（税控除付、区社協会長名）が必要な場合は、区社協にお尋ねください。

